

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島 瀬戸口24
電話 2-9772

隠岐の島町の教育活動

隠岐の島町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介いたします。

【学力向上対策事業】

隠岐の島町では、今年度も学力向上対策事業に取り組んでいます。その中で、今年夏に実施した三つの教科指導力向上セミナーについて紹介します。

一つ目は、雲南市教育委員会村尾亮子指導担当主事をお招きした「外国語科教科指導力向上セミナー」です。外国語活動では話す・聞くことに楽しく「慣れ親しむ」こと、外国語科の読む・書くことも定着を求めるのではなく「慣れ親しむ」ことを強調されました。また、ゴール（ねらい）を見据えた授業づくり（バックワードデザイン）は、全ての教科の授業づくりにつながると思われました。

二つ目は、桃山学院教育大学のの松久眞実教授の「ユニバーサルデザイン研修会」です。通常の学級における「誰もが参加できる授業づくり」について、講義いただきました。「よい授業とは、最後まで子どもをひきつける授業である。」という話から、授業始めのつかみを大事にして、まず全員を学習の土俵に乗せることや、ひきつけるふりかけ（かくす、予想、わざと間違える）など、様々な手立てを紹介していただきました。

三つ目は、赤坂中学校の甲斐利恵子先生の「国語科教科指導力向上セミナー」です。大村はま先生の一番弟子と言われる甲斐先生は、毎日、公立中学校で生徒と一緒に国語の授業をつくりあげています。セミナーは、実践を深める上での示唆に富む言葉がたくさんありました。例えば「学ぶ人は、必ず意味ある振り返りをする。」という言葉の紹介がありました。この言葉一つにも「子供たちの学びにおいて、振り返りをどう設定していくか」「教師の姿勢において、自分の授業に対する振り返りをどう設定していくか」という両面での意味があると感じました。実践を通して生み出された深い言葉をたくさん学ぶ機会となりました。

【支援から地域学校協働へ】

（派遣指導主事 増本）
十二月十四日に島根県立少年自然の家（江津市）でふるさと体験活動フォーラムが行われました。この中で、布施公民館の館長が、今年行われたサマーキャンプの様子を実践発表しました。

平成二十二年に旧中村小学校と旧布施小学校が統合して北小学校在り、同時に中学校も統合され、布施地区には学校がなくなりました。

その後、平成二十四年に北小から「布施地区で子供の活動を通して地域と交流しよう」という声があがり、北小学校と布施支所、布施公民館が協力して三泊四日の通学合宿をスタートさせました。ここでは、魚釣り体験や火の用心などの夜回り体験、地域の人との交流など様々な活動が行われてきました。

今年度は、修学旅行で宿泊体験は経験済みなので、泊数を減らし、新たに、「キャンプ体験をさせたい」という学校の要望を受け、布施公民館が中心になって実現しました。

魚釣りや採った魚をさばく体験に地域の方々も講師として参加し、シーカヤック体験や自然観察ではジオパークデスクや地域の方が活躍しました。最後には、地域の方とカローリングやクロロティード交流を深めました。わずか一日でしたが、子供たちの声が布施地区に響き渡りました。

算数授業改善推進校の取組

「子どもの声でつくる算数授業づくり」を授業改善方針として実施している算数授業改善推進校事業も三年目となりました。指定校の磯小学校では、先月行われた授業公開を含め、三回の授業公開並びに研究協議が行われました。今年度も小、中、高それぞれの校種から、のべ約五十名（指導主事等も含む）の参加がありました。

今年度の研究の重点は（１）「学ぶ意欲を高めるための課題提示の工夫」として、「授業の始まりは、全員が考えを持てるものからスタート」「児童の中に『問い』が生まれる課題提示の工夫（２）「思考力、判断力、表現力を高めるための意見交流の場の工夫」として「他の児童の考えが理解できたかどうかを意思表示すること（ハンドサイン等を活用）」をさせ、児童同士が考えをつないでいく、全員参加の授業」でした。この視点に沿って、熱心に協議がなされ、短時間ではありましたが、充実した研究協議となりました。

研究指定校としての役目から、年三回授業を公開しなければならなかったわけですが、それ以外にも全教員が校内研究授業を行い、研究協議をしておられます。「算数好きを増やす」という目標に向かって行ってきた授業研究は、先生方の授業力を高める場としても、とても有効に働いていると感じます。

参加された先生方からの感想を抜粋して紹介します。「解きたい！解いてやろう！という子どもたちの思いが見え、『考えること』を楽しむ」ということを子どもたちの姿から学ばせてもらいました。「全員が考えを持てるように、提示物が工夫されていたり、『何をいつか説明する？』という問いかけによって『これを使って考えてみよう』という意欲を引き出したり、参考にさせていたことがたくさんありました。」「生徒指導面でもまた学習指導面においても、子どもの考えや思いを聴くことは大切だと感じた。どうしてそのような操作をしたのか、なぜその式なのかなど、子どもの思考をさぐっていききたい。」

多くの学びを参加者に提供していただいた磯小学校の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

（文責 吉山）